



## 中国における映像ノウハウ

国内と同等のクオリティを海外で

# 中国での映像演出をサポート

## 映像センター



(株)映像センター  
イベント営業部 海外営業部次長  
八木 雄介 さん

展示会のブースに欠かせない要素の一つが、来場者を集客し、効果的な商品PRを可能にする映像演出である。海外での展示会でも同様だ。ただ、海外での映像演出は国内と環境が違い、注意点が多い。

2004年に中国・広州に現地法人を設立するなど、早い段階で中国に進出した(株)映像センターは、モーターショーや上海万博など、中国で豊富な映像演出の実績がある。

展示会で欠かせない映像演出を中国で成功させるには、どうすればいいのか、同社の海外営業部次長・八木雄介さんに聞いた

### 2004年に「広州AVC」を設立

中国の経済成長を背景に、日本企業による中国の展示会出展が盛んになった2000年ごろから、(株)映像センターは日本企業の出展サポートを開始し、2002年に北京に駐在事務所を設立した。2004年には広州に現地法人「広州AVC（広州愛惟希会展服务有限公司）」を設立し、現在は上海、北京に支社もでき、中国全土をカバーしている。

同社は年々、機材投資を進めており、現地で所有する機材のラインナップを拡大させ、日本で実施するような大がかりな演出にも対応できるように体制を整えている。案件がふえた場合には、現地の同業者からレンタルするなど、ローカル企業との

ネットワークも構築している。

現地法人には日本からの駐在員よりも中国籍のローカルスタッフが多いが、同社の教育により、日本と同等レベルのクオリティを維持できるように努めている。現地の展示会を熟知したスタッフと、日本と同レベルのクオリティを生み出す技術力が、現地で強みとなっており、国際級のモーターショーやプライベートショー、上海国際万博など、日本企業が関係する数多くの展示会・イベントを手がけている。

### 中国式のやり方を理解する

現地法人設立の当初から、現地での仕事に携わってきた八木さんは、「すべて日本式のやり方をするのではなく、中国の手法や規制・習慣な

どを理解しながら進めていかないと、うまくいきません」と中国で展示会やイベントを成功させる秘訣を語った。

中国では都市にもよるが、時間帯によって通行禁止になる区域がある。日本と同じ感覚で搬入日の午前中に搬入しようと思っても、規制で会場に向かうことができず、痛い目にあうことも多い。当日の早朝か前々日の夜に搬入するかなど、事前の詳細な打合せが必要だという。

また、機材をセッティングするタイミングについても注意が必要。早い時間帯に搬入し、セッティングを終わらせた場合、誰もいないと機材や出展物などが盗まれてしまう恐れもある。セッティングの時間は早すぎず、遅すぎず、施工スケジュールにあわせて仕上げるなどの対応が必要だ。

映像演出に関しても、画質をなるべく良くしようと努力する日本的姿勢と異なり、「ただ映ればよい」という感覚の業者も決して少なくはない。

ローカルスタッフにも現状で満足してしまう傾向があり、八木さんは「すべて中国式では意味がない。弊社が提供すべきものは、出展者が求



めているレベルを超えていかないと…」と、日本と同等のクオリティを維持するための教育に、力を注いでいる。

機材レンタルの仕事が入った場合にも、ただ機材を持って行くだけではなく、事前に倉庫でメンテナンスをしてから持って行くなど、基本的なことも教育しており、日本式のスタイルがローカルスタッフにも浸透してきている。

### 「映像信号」と「電圧」の違いに要注意！

#### 日本はNTSC、中国はPAL

トラブルが最も起こりやすく、注意を払わなければいけないのが、「映像信号」と「電圧」の違いだ。

ビデオカメラで撮影した動画をテレビに出力する映像信号の方式は、「NTSC」「PAL」「SECAM」



の三つに分かれているが、日本はNTSC方式、中国はPAL方式を採用している（表1参照）。

日本で制作されたDVDは、映像信号の違いにより、基本的には別の放送方式を取る外国の機材では映らない。だが、中国によくある民生のDVD再生機は、NTSCやPALのどちらでも出力できる機材も多いのだという。

単にDVDを出力するだけなら、日本での映像制作物も、なんとか中国の機材で出力できる。

しかし、たとえばベータカムのテープに収録された動画をDVDに落とし、テレビに出力する、といった場合、旧式の素材に関する海外放送方式の機材は極端に少なく、対応は非常にむずかしい。

八木さんは「弊社には、NTSCやPALが混在していても対応できるスイッチャーもありますが、どちらかに統一しなければならないタイプの機材もあります。ですので、機材の選択にもかなり気を使っています」と、混在する映像信号への対応に、労力を惜しまない。

また、現地で映像の収録が必要になった場合、収録した素材はどこで使用するかによって、撮影する映像信号も変えなければならない。現地

表1 世界のカラー映像信号

|       | NTSC                                  | PAL  | SECAM   |
|-------|---------------------------------------|--|---|
| 主な採用国 | アメリカ<br>カナダ<br>日本<br>韓国<br>台湾<br>メキシコ | ドイツ<br>イギリス<br>などEU諸国<br>オーストラリア<br>ニュージーランド<br>中国（香港含む）<br>タイ | フランス<br>サウジアラビア<br>など中近東諸国<br>ロシア<br>キューバ<br>東欧諸国 |

で使用するならPALで問題ないが、日本で使用するなら、NTSC方式での撮影が必要となる。

日本で制作された映像素材は、場合によっては中国で出力できないこともあり得る。そのことをしっかりと理解し、映像素材はどちらの信号を使用しているかなど、事前のチェックと対策を講じることが重要だ。

### 日本は100V、中国は220V

電圧の違いによるトラブルも多い。「電圧は中国が220Vで日本は100V(表2)。コンセントを間違えて差し込めば、機材から白煙が出てしまいます」(八木さん)。日本から派遣さ

れた同社のスタッフでも、日本と同じ感覚で、つい電圧を確認せずに電源をコンセントに繋いでしまうこともあるそうで、対策として「電源系統の配線は、ローカルスタッフに任せる」ことを、八木さんは徹底している。

また、出展者が確認なしに展示製品の電源を繋いでしまうこともあり、八木さんは必ず事前に警告している。

同社の機材には、日本や中国でも使用可能な100~240Vに対応した機材もあるが、すべてが対応製品ではないので、事前確認は欠かせないそうだ。

文化・慣習の違い、映像信号や電

表2 主な国の電圧

| アジア    |         | 欧米   |         |
|--------|---------|------|---------|
| 国名     | 電圧(V)   | 国名   | 電圧(V)   |
| 日本     | 100     | イギリス | 220     |
| インド    | 230     | イタリア | 220     |
| 韓国     | 100/220 | スペイン | 127/220 |
| シンガポール | 230     | ドイツ  | 220     |
| 台湾     | 110     | フランス | 237/330 |
| 中国     | 220     |      |         |
| ベトナム   | 220     | アメリカ | 120     |
| 香港     | 220     | カナダ  | 120     |
|        |         | ハワイ  | 120     |

圧といった環境の違いなど、中国出展には注意事項が多い。出展者にとっては、その国のやり方に精通した経験豊富な会社をパートナーに選ぶことが、海外展示会を成功させるキーポイントになるだろう。

URL <http://www.avc.co.jp/>

## 広州愛惟希会展服务有限公司

■北京 ■上海 ■広州

株式会社映像センターは、中国に現地法人(子会社)を開設し7年目を迎えます。

- イベント映像事業部 (海外事業部含む)  
東京都中央区勝どき 1-7-3 勝どきサンスクエア  
TEL 03-3532-3641
- 大阪支店  
大阪府大阪市西区川口4-7-25 TEL 06-6583-9011
- 名古屋支店  
愛知県名古屋市中区千代田3-31-25 TEL 052-322-5791

**AVC** 株式会社  
映像センター  
AUDIO VISUAL COMMUNICATIONS LTD.



2010年上海万博 - 日本産業館